

第 9 回臨床研修医交流会

と き 平成 29 年 8 月 26 日 (土) 15:00 ~

8 月 27 日 (日) 9:00 ~

ところ ホテルかめ福 2 階ロイヤルホール

[報告 : 代表世話人 / 宇部興産中央病院 福田 進太郎]

平成 29 年 8 月 26 日から 27 日の 2 日間、湯田温泉のホテルかめ福において第 9 回臨床研修医交流会が開催されました。参加者は研修医 79 名、指導医等 45 名、計 124 名でした。本年は宇部興産中央病院が当番幹事を引き受け、当院研修医の松山哲也 先生が代表幹事を務めました。4 月、5 月、6 月に 3 回の幹事打合会を開催して準備を進めましたが、松山先生の胸襟を開いた屈託のない司会のおかげで、幹事の皆さんから積極的な意見・提案が次々に浮かんできて活発な討論が行われました。県内東から西まで多くの病院から幹事の研修医が参加してくれましたが、皆さんすぐに打ち解け、連帯意識が醸成されていくのが傍らで見ていてよく分かり、議事の進行を安心して見ていました。

当日は松山先生の総合司会により、県医師会長の河村康明 先生、山口県健康福祉部長の岡 紳爾 先生のご挨拶で始まり、県医師会副会長の濱本史明 先生が医師会及び山口県医師臨床研修推進センターの事業を説明されました。研修医にはまだ身近に感じにくい医師会という組織が携わっている広範な事業を、分かりやすく丁寧に説明していただきました。

続いて、特別講演 1 として山口大学大学院医

学系研究科皮膚科学講座の教授に昨年度着任された下村 裕 先生から「私の自己紹介と臨床研修医の皆さんに伝えたいこと」と題してご講演いただきました。学生時代に講義で出会った 1 枚の毛髪の電顕写真の解剖学的美しさに惹かれて皮膚科学の道を志したこと、留学時代や帰国後の研究生生活の様子や成果を分かりやすく、かつ情熱的に話していただきました。私のような門外漢が聞いていてもとても面白く興味深い内容で、参加された指導医陣からも「勉強になった」という声が聞こえてきました。

その後、アイスブレイクとして幹事のリードの下で「ロコモ体操」を参加者全員で行い、体をほぐしてからグループワーク「研修医駆け込み寺」が行われました。これは A から J まで 10 班に分けたグループで、研修中に経験したヒヤリハットや失敗談をスライドにまとめ、発表するものです。すべての班が発表したところで第 1 日目のプログラムは終了しました。

部屋を変えて 19 時より、もう一つのメインイベントである懇親会が開催されました。山口大学医学部附属病院研修医の二又卓朗 先生の司会の下、開会にあたり村岡嗣政 山口県知事 (代読)、山口大学医学部附属病院医療人育成センター研修



下村 裕 教授



井村 洋 先生

医・専門医支援部門長の木村和博 先生からご挨拶いただいた後、小生の乾杯で開会しました。食事やお酒が進むにつれて打ち解けた雰囲気となり、久しぶりの再会や近況の情報交換などで座の雰囲気は一気に和んでいきました。恒例のビンゴ大会で盛り上がりは最高潮になり、気がつけば閉会予定の 21 時になっているという状態でした。中締めにしたれた県医師会副会長の吉本正博 先生から、「この交流会は研修医が将来の伴侶を見つける機会を作ることも創設時の目的の一つであったと記憶している。皆さんも勉強とともに本日のご縁を大事にしてほしい」とのお話があり第 1 日目のプログラムはすべて終了しましたが、吉本先生の意を汲んだ方々は先輩、同輩と連れだって湯田温泉の街並みに繰り出して行きました。

翌 27 日は、前夜の疲れをものともせず全員が定刻前に集合し 9 時に開始しました。山口大学医学部附属病院医療人育成センターの前田敏彦 先生の開会挨拶に続き、特別講演 2 として飯塚病院特任副院長・総合診療科部長の井村 洋 先生から「一生使える感度・特異度と尤度比 (LR)」と題してご講演いただきました。ハーバード大学で学ばれた高度な知識を分かりやすく Q & A 形式で話された後に熱心な質疑応答があり、傍聴し

ている関係者にも好評でした。

休憩の後に、幹事団の構想による「ドクター E ～医者のお～症例検討会」が行われました。幹事による症例提示の後に各班が症状の把握、検査結果の判断、診断へと意見を戦わせました。前田先生もアドバイスに加わり、最後はどんでん返しの最終診断に会場が湧く結果となりました。

充実した時間が過ぎ予定の内容を終了した後に県医師会常任理事の加藤智栄 先生より前日のグループワークに対するベストプレゼンテーション賞の発表と講評、閉会挨拶が行われ、本年の研修医交流会は終了しました。来年度以降もこの会がさらに継続・発展されることを期待いたします。

終わりに、今回の交流会の開催にあたりご尽力いただいた病院幹事の先生方、県医師会の加藤常任理事・中村理事や事務局の方々及び山口大学医学部附属病院医療人育成センターの前田先生には大変お世話になりました。また、ご多忙の中、ご出席いただいた関係者の方々にも誌面を借りて厚くお礼申し上げます。

第 9 回臨床研修医交流会を終えて

〔報告：代表幹事／宇部興産中央病院研修医 松山 哲也〕

8 月 26 日及び 27 日の 2 日間の日程で第 9 回臨床研修医交流会が山口市のホテルかめ福にて開催されました。本年度の主幹病院は医療法人社団宇部興産中央病院であり、代表世話人を福田進太郎 先生、代表幹事を私が務めさせていただきました。準備段階から当日まで、多くの方々にご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

事前準備では山口市で幹事打合会が 3 回に亘って行われました。各病院の幹事がそれぞれ年次に

関係なく意見を出し合い、よりよい交流会になるように活発に話し合いました。時には意見がぶつかり、お互いの意見が平行線をたどることもありました。県医師会の加藤智栄 常任理事や中村 洋 理事にもご意見をいただき、幹事たちで充実したプログラムを考え出すことができました。

今年度の特別講演は、山口大学大学院医学系研究科皮膚科学講座教授の下村 裕 先生に「私の自己紹介と臨床研修医の皆さんに伝えたいこと」

という演題でご講演いただきました。先生がなぜ皮膚科の道を志したのかというお話から、臨床だけではなく研究の魅力についてお話しいただき、多くの研修医が興味深く聞き入っている様子でした。特に留学先で研究に打ち込まれていた光景は研修医にとって非常に魅力的であったようです。

下村先生にご講演いただいた後、会場全体でアイスブレイクとしてロコモ体操を行いました。最初は恥ずかしかっている方も見受けられましたが、気がつけば皆さん打ち解けて非常に楽しまれている様子でした。

その後は、「研修医駆け込み寺」という演目でグループワークを行いました。自分たちが起こしてしまった失敗談について、時に冗談交じりに時に真剣に各班で活発な議論が行われました。普段交流が少ない他病院の研修医とこのような意見交換を行うことで、「悩んでいるのは自分だけではない」、「そういう失敗に気をつけよう」と思えた研修医も少なくなかったのではないかと思います。

1 日目のプログラム終了後は、会場を移し懇親会が開催されました。各病院より豪華景品を提供していただき、ビンゴの出る目に一喜一憂しながら、大いに盛り上がりを見せ、熱気と笑い声の絶えない懇親会となりました。景品を提供いただいた各病院の先生方、ご尽力いただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。

2 日目は飯塚病院特任副院長・総合診療科部長の井村 洋 先生に「一生使える感度・特異度と尤



ロコモ体操

度比 (LR)」という演題でご講演いただきました。井村先生の人柄と巧みな話術で会場の研修医たちは自然と話に引き込まれていき、最初は冗談話に楽しく笑っていましたが、気がつけば真剣な表情で話を聞き入っていました。感度・特異度と尤度比 (LR) というなんとなくぼんやり理解していた概念が、今回の講演で明確なものに変わった研修医も多かったのではないかと思います。今後、日常診療の中で診断を進めていくために非常に有意義な内容でした。

その後、1 日目と同じグループに分かれて症例検討会を行いました。各班で非常に活発な議論が行われ、時にぶつかりながらも力を合わせて診断を進めていました。すべての班で 2 日間のプログラムで得た知識・考え方が非常に役に立った様子であり、今回の臨床研修医交流会が有意義なものであったと早くも感じる事ができました。

2 日間に及ぶ交流会を通じて、知識や経験を共有することができ、とても実りのある会となりました。この研修医交流会を開催できたのも山口県医師会の皆様方と世話人を引き受けてくださった福田先生、また、各病院の関係者の方々、幹事の先生方のおかげでございます。この誌面を借りて重ねてお礼を申し上げます。今回の交流会で得た知識や経験を活かし、今後、山口県での医療を支えていくことができるよう、日々研修に励んで参りたいと思います。今後とも引き続き温かいご指導・ご鞭撻を賜りますよう、何卒宜しく申し上げます。



グループワーク